

「学生による授業評価」に基づく

授業報告書

2017（平成 29）年度

聖心女子大学

授業報告書の公表にあたって

学務担当副学長 佐々木 恵介

聖心女子大学では、平成 16 年度より「学生による授業評価に基づく授業報告書」を公表しており、今回の平成 29 年度版で、第 14 回目をむかえることとなった。本学における授業評価の特徴は、以下の点にある。

- ① 共通のフォーマットに基づく客観的評価方式により、年度間や授業間での数量的な比較が可能なこと。
- ② 数量的な評価にとどまらず、学生の自由な意見の記述を促す方式により、個々の授業内での長所や問題点が具体的に把握できること。
- ③ 評価結果を関係教員や学生にフィードバックするだけでなく、その評価結果に基づき、各授業を担当する全専任教員が授業報告書を作成し、授業の自己点検評価を行い、次年度に向けた改善方策を示していること。
- ④ 上記の授業報告書を集約、整理し、学科専攻のレベルや大学全体のレベルで自己点検評価を行い、次年度に向けた対応策や方針に関して、各レベルでのコンセンサスを形成する仕組みが整っていること。

このように、本学の授業評価は、学生による評価にはじまり、全学的な自己点検評価とそれに基づく改善方策の検討へと連なるサイクルのなかで行われている。平成 29 年度の授業評価と、これに基づく授業報告書をまとめた本報告書は、すべての教員と学生に対して公表される。本報告書が、とくに授業の面から、大学教育の改善を進めていくための基礎的な資料として大いに活用されることを期待するものである。

I. 平成 29 年度 FD 協議会・研修会の概要

今年度の FD 協議会は、計 9 回開催された。「授業報告書」の検証、FD 研修会の企画等の定例の議題のほか、以下の案件が協議された。

(1) シラバス作成ガイドラインの見直し

シラバスの様式、記載内容については、この 3 年ほど不断に見直しを行っているが、今年度は、平成 30 年度のシラバス作成にあたり、「学習目標」の項目を「授業のテーマ及び到達目標」に変更し、「授業時間外の学習」についてその表記方法の見直しを行った。

(2) 聖心女子大学グッドティーチャー賞の選出

昨年度創設した「聖心女子大学グッドティーチャー賞に関する内規」に基づき、年度末の第 9 回 FD 協議会において、グッドティーチャー賞候補者を学長に推薦した。受賞者は以下の通りである。

平成 29 年度 英語英文学科 マーシャ・クラッカワー教授

(3) FD 研修会の開催

今年度は以下の 3 回、開催した。

第 1 回 5 月 19 日(金)

障害のある学生への理解と支援について－事例を中心として－

講師 校医 土井弘壱氏

* 学生相談室と共催

第 2 回 7 月 25 日(火)

大学教育における ICT 活用－学生からの提出データの管理と処理－

講師 名誉教授 永野和男氏

第 3 回 10 月 31 日(火)

研究活動の不正行為及び研究費の不正使用の防止について

講師 評価・大学院担当副学長 北村和夫教授

文部科学省研究振興局学術研究助成課課長補佐 井上賢一氏

II. 平成 29 年度の授業評価実施状況

平成 29 年度に実施された「学生による授業評価」の概要は、以下のとおりである。

1. 平成 29 年度の授業評価概略

本年度の「学生による授業評価」(授業アンケート)は、従来と同じ内容と手順で行った。アンケートの内容は、表 2 に掲げたように、学生自身に関する質問 4 問と、教員に関する質問 5 問の計 9 問、及び自由記述の Q10 から構成されている。

実施の手順は、表 1 のとおりである。

<表 1 : 学生による授業評価の実施手順>

専 任 教 員	<p>①専任教員は、自己の主要担当科目につき、3 年間で授業評価が一巡できるようあらかじめ実施計画を作成して届けている。その他、大学、学科・専攻の授業システム改善上、有意義と思われる科目を組み込むことも可能となっている。</p> <p>②実施する科目の種類、受講者数は問わないが、講義科目の場合は「客観形式の評定尺度方式と自由記述方式の組み合わせ（巻末参照）」（以下単にマークシート方式と呼称）での実施を原則とする。演習科目等、少人数の科目は、マークシート方式または自由記述方式とする。</p> <p>③6 月の時点で各教員に授業評価の実施日や実施科目について調査を行い、それに基づいて準備をした用紙を学期末に各学科・専攻の研究室を通して配布する方式をとる。また、調査の時点で各教員が申告した 3 年計画の内容を添付し、3 年間ですべての授業を評価するとした基本方針をより確実にする。</p> <p>④マークシート方式の場合、事前に調査日を教務課に通知する。集計は教務課が行い、集計結果と調査原票は教員に戻す。</p> <p>⑤専任教員は原則として 2 つの科目について授業報告書を作成し、項目の中に、前年と比較しつつ授業改善の成果や工夫について記述する。報告書の提出期日は平成 30 年 2 月 23 日とする。</p> <p>⑥学科・専攻は教員個人の授業報告書を踏まえつつ、学科・専攻としての教育内容・授業方法改善への取り組みを報告書にまとめて、3 月の FD 協議会に提出し検討する。</p>
非 常 勤 講 師	<p>①年間 1 科目についてマークシート方式で授業評価を行う。複数の科目を担当する非常勤講師の場合、前年実施の科目とは異なる科目について実施する。評価結果の集計と自由記述部分のコピーは、成績簿提出後に教員宛郵送する。</p> <p>②受講登録者 10 名以下の科目については実施しない。</p>

その他

この他、第一外国語の「1年英語」に関しては、担当学科である英語英文学科による独自の授業評価に譲り、大学全体の授業評価から除外したことは平成18年度以来同様である。また、大学院科目についての授業評価は別途実施した。

注：授業評価の実施に当たっては、教員は退席し、原則として指定された学生が調査票・回答用紙の配付、回収、封入、研究室への提出を行う。

<表2：マークシート方式における「授業に関する調査」設問内容>

○学生自身に関する質問

Q1. この授業への出席率はどのくらいでしたか。

5. すべて出席した 4. 1～2度欠席したがほとんど出席した
3. 3分の2程度出席した 2. 3分の1程度出席した
1. ほとんど出席しなかった

Q2. この授業のために平均何時間程度、予習・復習をしましたか。(本やインターネットで調べるなども含む)

5. 2時間以上 4. 1～2時間 3. 30分から1時間
2. 30分以下 1. 0分

以下のQ3～Q9については、「5. よくあてはまる 4. ある程度あてはまる 3. どちらともいえない
2. あまりあてはまらない 1. まったくあてはまらない」の共通の選択肢で回答。

Q3. あなたは受講前からこの授業の内容に興味・関心があった。

Q4. 総合的にみて、この授業に満足した。

○教員に関する質問

Q5. シラバスの記載内容は、この授業を受講するうえで役に立った。

Q6. 教員の説明の仕方、話し方はわかりやすかった。

Q7. 授業に使う教材(テキスト・配布資料・映像など)は学習の役に立った。

Q8. 毎回の授業内容の分量や速度は適切だった。

Q9. 教員の授業運営(質問や発言の十分な機会、私語の注意)は適切かつ公正だった。

Q10. この授業のよかった点、あるいは改善すべき点は何ですか。また、設備・教室等に関して何か意見や感想がありますか。この授業の改善につながるような建設的な意見を書いてください。(自由記述部分)

(以上のような手順および形式で実施された平成29年度授業評価に関する書式は、本書巻末269頁以下に参考資料として掲載されている)

2. 平成 29 年度の授業報告状況

平成 29 年度の授業評価は、上記の方法により、前期末、後期末の 2 回にわたって実施された。その結果をふまえ、専任教員は授業報告書を作成して、平成 29 年 2 月下旬までに提出することとした。平成 29 年度の専任教員数は、研修年等の教員を除くと 63 名であった。今年度はこの 63 名全員から授業報告書の提出があり、提出率は 100%となった。報告件数は 83 件で、教員 1 人あたりの報告科目は 1.32 件である。各専任教員による「授業報告書」は、原則として手を加えず、そのまま本報告書 59 頁以下に、学科専攻ごとに掲載した。ただし基礎課程演習に関しては、参照の便を考慮して、255 頁以下に一括して掲載した。

各学科専攻では、これらの各教員による「授業報告書」を参照しつつ、学科専攻として行っている教育内容、授業改善への取り組み、あるいは今後の課題等を取りまとめ、それぞれ「学科・専攻コースの授業報告書」として、平成 30 年 3 月開催の FD 協議会までに、学務担当副学長に提出した。これらの報告書も、原則として手を加えず、そのまま本報告書 21 頁以下に掲載した。

なお、非常勤講師については、それぞれ 1 科目についてマークシート方式の評価が行われ、計 306 科目で、調査が実施された。

3. 授業評価の分析

ここでは、マークシート方式(上掲表 2 参照)によって行われた授業評価について、得られたデータをレーダーチャートと棒グラフで示し、その結果を分析する。

分析の対象となるのは、専任教員担当の 63 科目と、非常勤講師担当の 306 科目、計 369 科目であり、Q1～Q9 の 5 段階評価を担当教員別(全体・専任教員・非常勤講師)、各学科・専攻別、授業種類別に分けてレーダーチャートで、設問ごとの回答の分布を棒グラフで示した。なお、Q10 の自由記述については各担当教員による授業報告書に一部が紹介されている。

(1) レーダーチャートによる分析結果

前述した集計区分を、より具体的に示すと下表 3 のとおりである。

<表 3 : 集計結果区分>

<全体 (専任教員+非常勤講師)、専任教員、非常勤講師別>

- 1) 全体 (専任教員+非常勤講師)
- 2) 専任教員全体
- 3) 非常勤講師全体

<学科・専攻別>

- 4) 英語英文学科
- 5) 日本語日本文学科
- 6) 史学科
- 7) 人間関係学科
- 8) 国際交流学科
- 9) 哲学科
- 10) 教育学科(教育学専攻・初等教育学専攻)
- 11) 心理学科

<授業種類別>

- 12) 基礎課程科目 (基礎課程演習)
- 13) 全学共通科目 (総合現代教養・情報活用演習)
- 14) 全学共通科目 (ジェンダー学・ボランティア研究)
- 15) 全学共通科目 (キリスト教学)
- 16) 全学共通科目 (体育運動学 運動学を含む)
- 17) 全学共通科目 英文専攻以外第一外国語 (リーディング・オラル)
- 18) 全学共通科目 英文専攻第一外国語 (2年英語1・2年英作文)
- 19) 全学共通科目 (1年第二外国語)
- 20) 全学共通科目 (2年第二外国語)

369科目全体のレーダーチャートを見ると、Q2を除くすべての設問について、平均値は4を超えており、学生の出席率・関心・満足度、及び教員の授業の進め方の双方において、積極的・肯定的な評価が下されている。また、専任教員と非常勤講師との間で比較すると、教員の授業方法に関するQ5以下の設問について、前者の数値が後者を若干上回っている。これらの傾向や、各設問の平均値については、ほぼ例年通りの結果が出ているといえよう。

次に設問ごとの特徴を、学科別・授業種類別のデータも含めてみていくことにする。

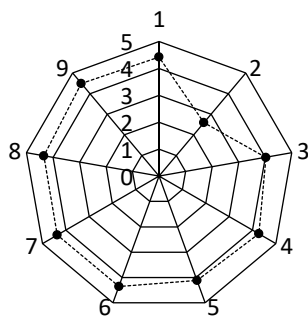
Q2(授業のための予習・復習時間)については、昨年度に比べると、全体の平均値はほぼ同じだが、わずかに上昇した。これは非常勤講師のデータが昨年とほぼ同様なのに対して、専任教員の数値がやや上がったことによる。ただいずれにしても、3(30分から1時間)を若干下回っており、いわゆる「単位制の趣旨」ということからすれば不十分であることに変わりはない。学科別にみると、英文・日文がほぼ3.0、国際交流・心理が2点台後半、史学・哲学・教育が2点台半ば、人間関係が2点台前半となっている。昨年と比べて史学・哲学・心理はやや上昇し、人間関係と教育は下がっている。とくに人間関係の平均値は2.0をわずかに上回るところに位置している。アンケートをとった授業科目の性格によるのかもしれないが、気になるところである。授業種類別では、基礎課程演習が昨年、一昨年を大きく上回り、ほぼ4.0となったほかは、ほぼ例年通りの数値となっている。

Q3(受講前の授業への興味・関心)については、全体的には昨年度と同様の数値だが、キリスト教学が3点台半ば、1年英語が3点台前半(こちらは昨年度より若干下がっている)と相対的に低い数値となっているのは、科目の性格からある程度やむを得ないのかもしれないが、残念な結果となった。これに対して第二外国語は1年次・2年次とも昨年度をやや上回った。

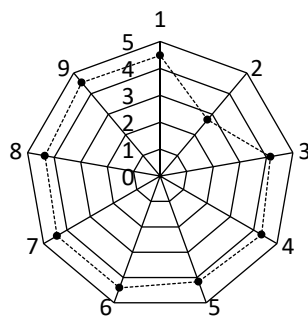
Q4(総合的な満足度)については、全体的な傾向は例年通りである。またQ3に比べて、数値が高い点も、Q3で相対的に低かったキリスト教学や1年英語も含めて、例年と同様の結果となっている。学科別にみると、全ての学科で4点を上回っているが、とくに教育・心理で満足度が高いのが目立った。

Q5(シラバスが役に立ったか)の全体的な傾向は、前回と同様である。学科別では教育・心理が相対的に高く、これはQ4の数値と連動している可能性がある。語学については、昨年度は1年第二外国語が最も低かったのが、今年度は2年第二外国語が低い数値となっており、学年の特徴とみることができるかもしれない。

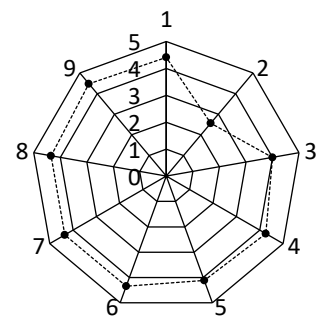
Q6以下の授業方法に関する設問は、全体的には例年と変わらない。学科別にみると教育・心理が相対的に高く、これはQ4・5と同様の傾向を示している。



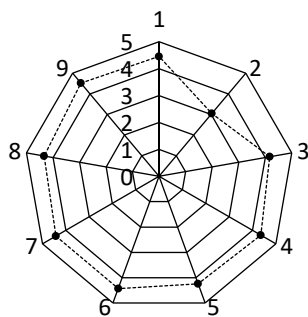
1) 【全体】 369 科目



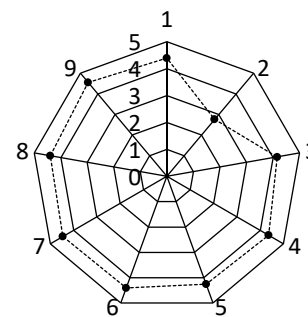
2) 【専任】 63 科目



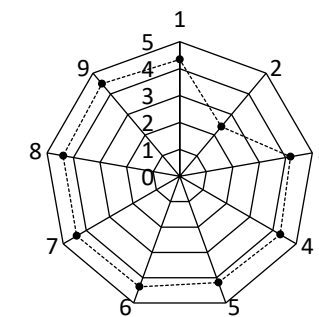
3) 【非常勤】 306 科目



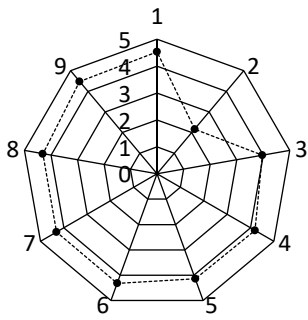
4) 【英語英文学】 31 科目



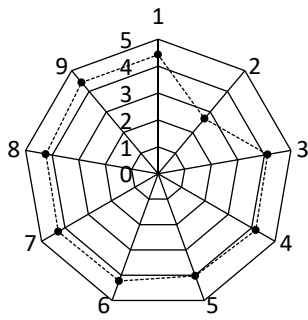
5) 【日本語日本文学】 31 科目



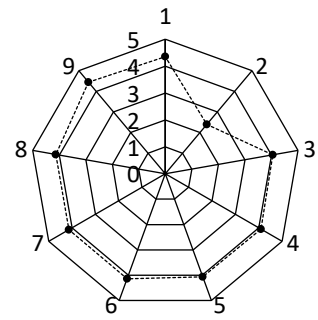
6) 【史学】 35 科目



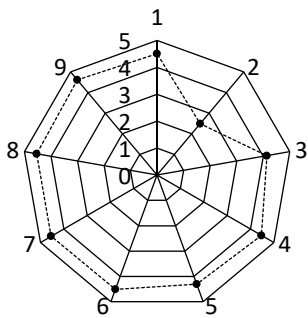
7) 【人間関係】 42 科目



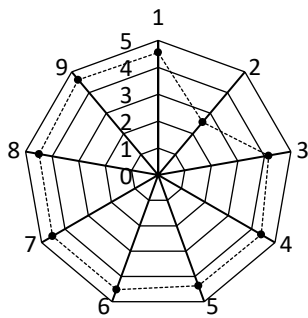
8) 【国際交流】 31 科目



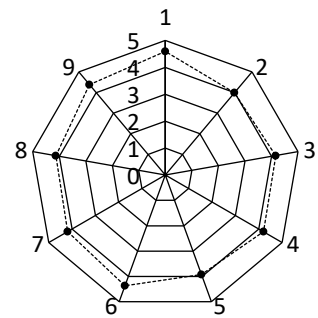
9) 【哲学】 14 科目



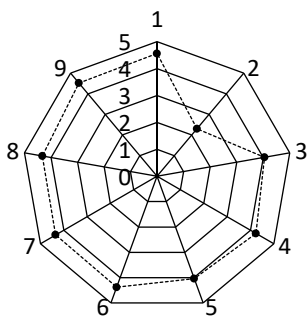
10) 【教育学】 52 科目



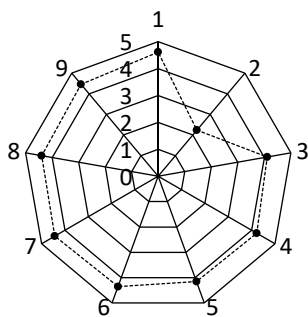
11) 【心理学】 27 科目



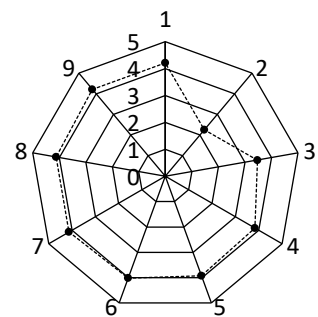
12) 【基礎課程演習】 4 科目



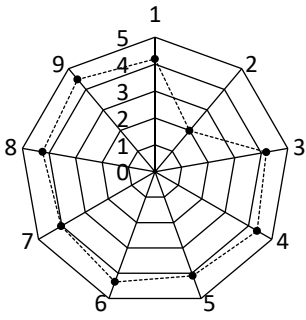
13) 【総合現代教養・情報活用】
26 科目



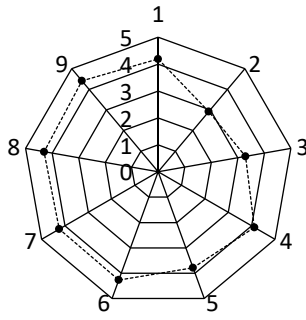
14) 【ジェンダー学・ボランティア】
5 科目



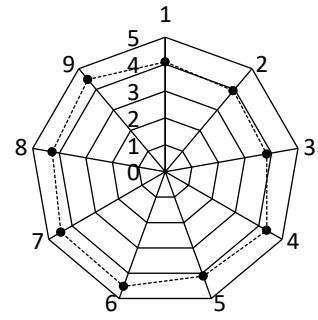
15) 【キリスト教】
14 科目



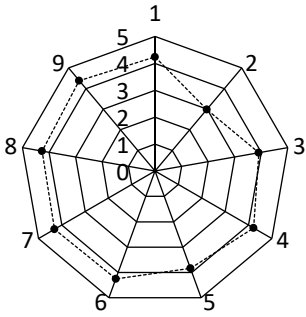
16) 【体育運動学】
6 科目



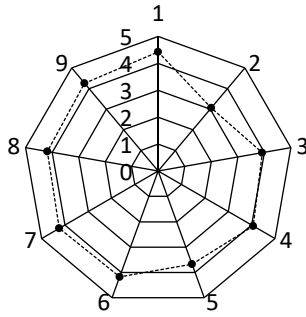
17) 【2年英語2 (リーディング・オラル)】
20 科目



18) 【2年英語・2年英作文】
4 科目



19) 【1年第二外国語】
20 科目



20) 【2年第二外国語】
7 科目

(2) 棒グラフによる分析結果

全アンケートについて、Q1～Q9 の回答を表示したものが、以下の棒グラフである。横軸が 5 段階評価の評定尺度(数値が高いほど高評価)、縦軸が評価対象授業数を示している。以下、とくに変化のあった設問を中心に、昨年度と比較しながらみていきたい。

まず Q2(授業のための予習・復習時間)については、今年度も昨年度に続いてピークは 2.0～2.5 のところにあり、しかも 1.5～2.0 との差がやや広がっている。わずかずつではあるが、授業時間外の学習時間は増加しており、今後もシラバスの工夫等を進めて学習時間の確保をはかっていきたい。

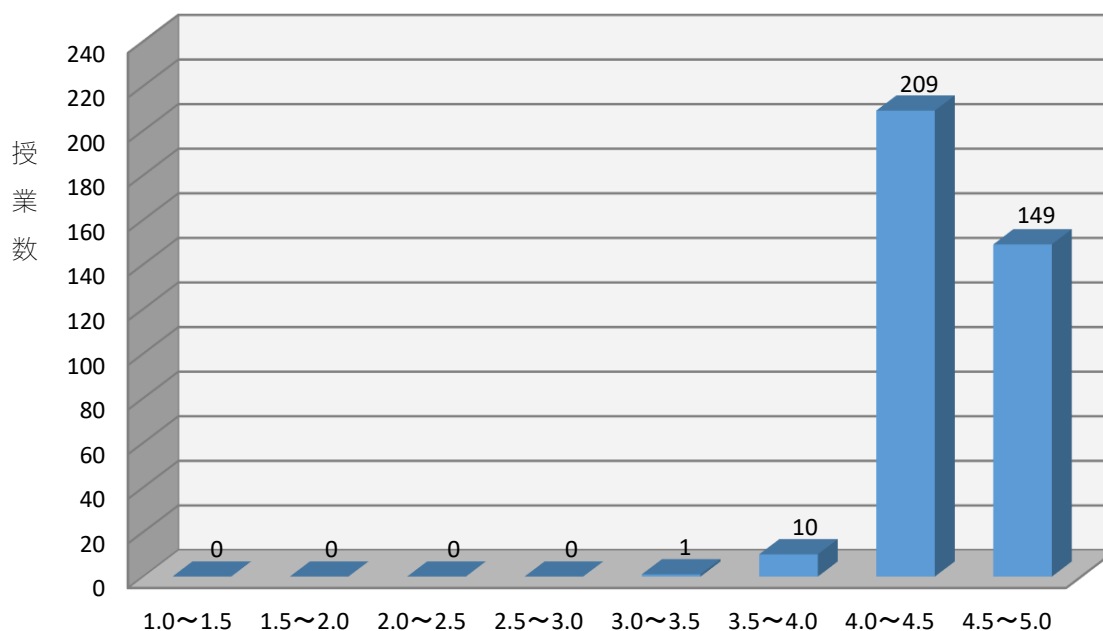
Q4(総合的な満足度)については、昨年度、そのピークが 4.5～5.0 からひとつ下の 4.0～4.5 に移ったのだが、今年度も同様で、両者の差はやや広がっている。全体の平均値は昨年度と同じなのだが、学生の評価がやや厳しくなっているという傾向は一層進んだというべきだろう。

以下の Q5～Q9 については、ほぼ例年通りの結果となった。

[学生自身に関する事柄]

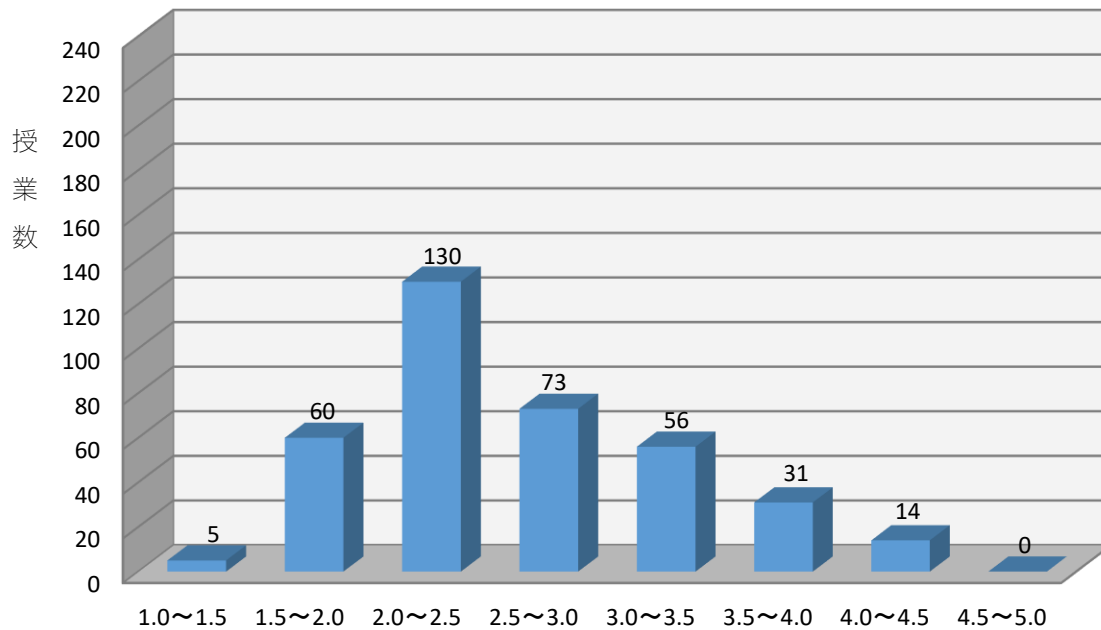
Q1. この授業への出席率は？

5. すべて出席した 4. 1～2 度欠席したほとんど出席した 3. 3 分の 2 程度出席した
2. 3 分の 1 程度出席した 1. ほとんど出席しなかった



Q2. この授業のために平均何時間程度、予習・復習をしましたか。(本やインターネットで調べるなど)

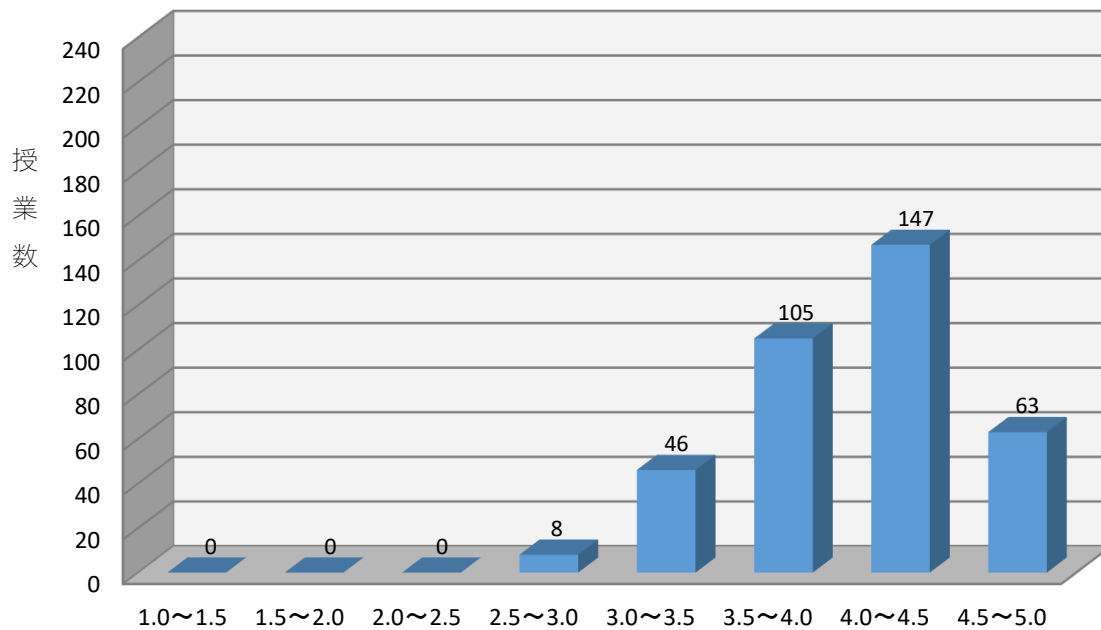
5. 2時間以上 4. 1~2時間 3. 30分~1時間 2. 30分以下 1. 0分



Q3. 受講前からこの授業の内容に興味・関心あった。

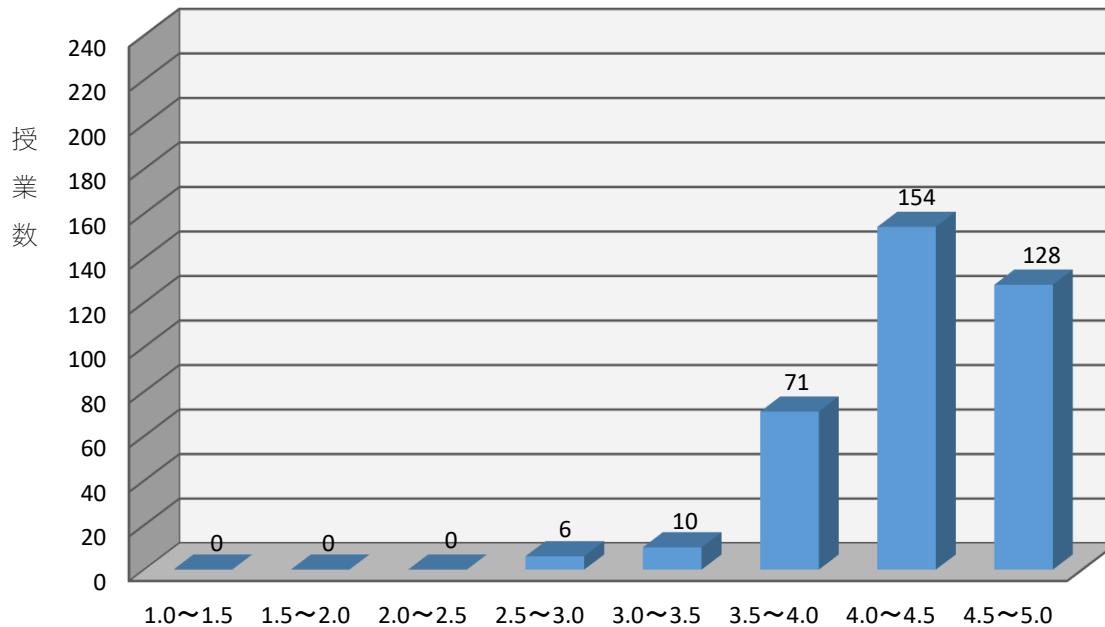
5. よくあてはまる 4. ある程度あてはまる 3. どちらともいえない

2. あまりあてはまらない 1. まったくあてはまらない



Q4. 総合的にみて、この授業に満足した。

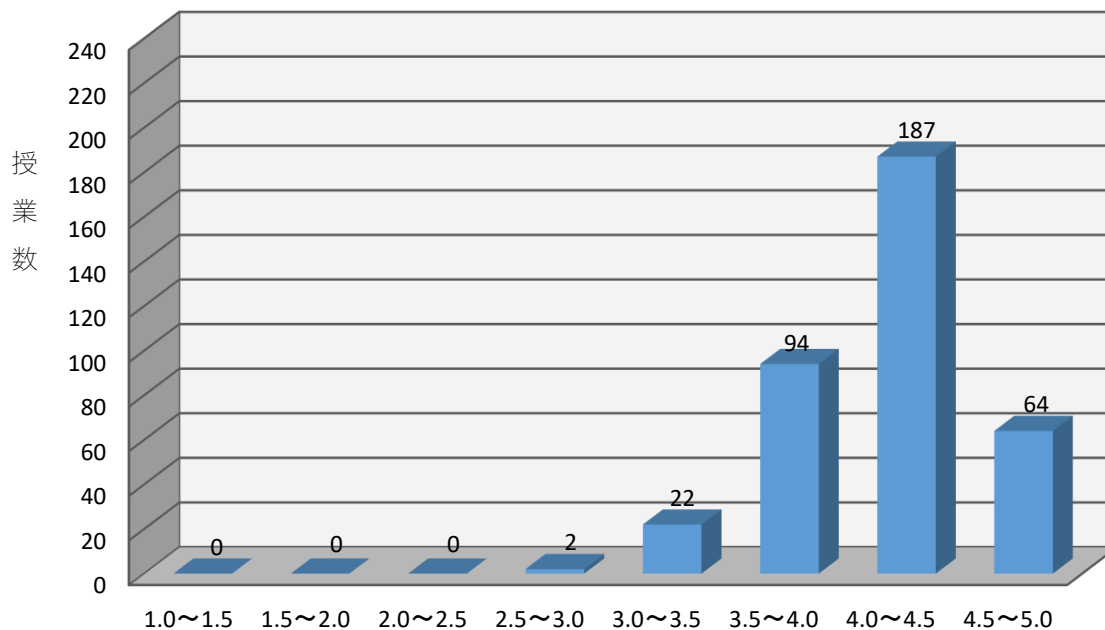
5. よくあてはまる 4. ある程度あてはまる 3. どちらともいえない
2. あまりあてはまらない 1. まったくあてはまらない



【教員に関する事柄】

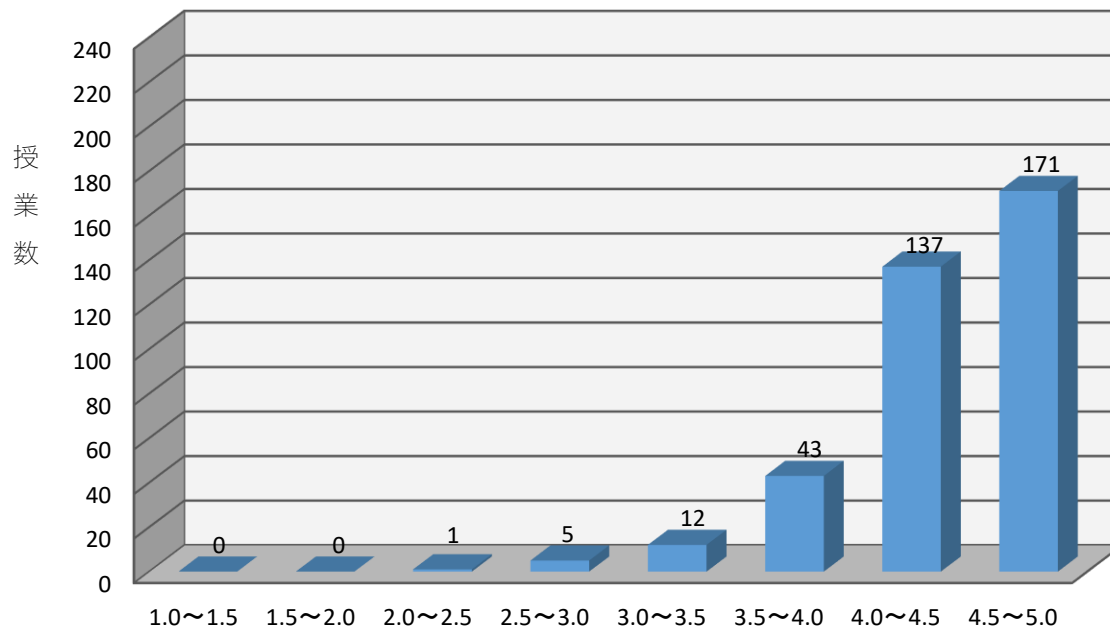
Q5. シラバス記載内容は、この授業を受講するうえで役に立った。

5. よくあてはまる 4. ある程度あてはまる 3. どちらともいえない
2. あまりあてはまらない 1. まったくあてはまらない



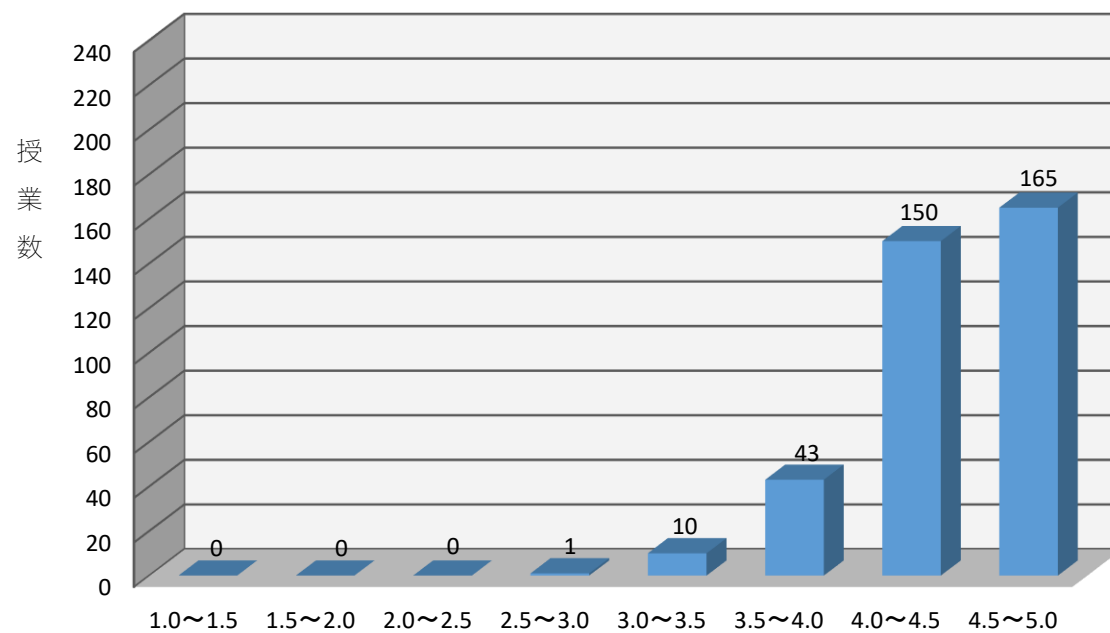
Q6. 教員の説明の仕方、話し方はわかりやすかった。

5. よくあてはまる 4. ある程度あてはまる 3. どちらともいえない
2. あまりあてはまらない 1. まったくあてはまらない



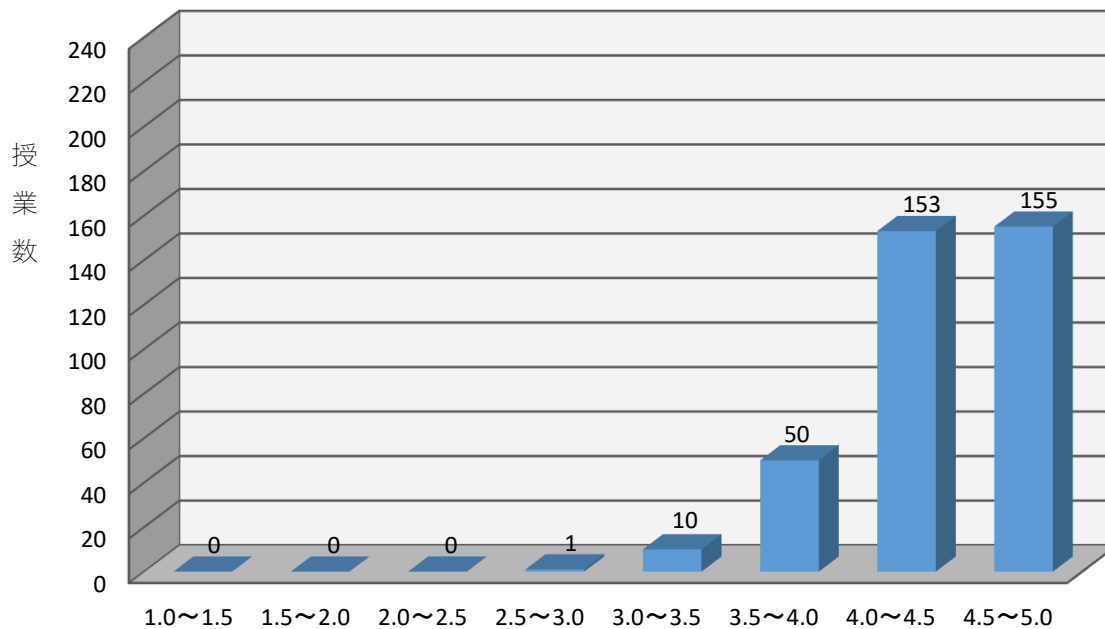
Q7. 授業中に使う教材（テキスト・配布資料・映像など）は学習の役にたった。

5. よくあてはまる 4. ある程度あてはまる 3. どちらともいえない
2. あまりあてはまらない 1. まったくあてはまらない



Q8. 毎回の授業内容の分量や速度は適切だった。

5. よくあてはまる 4. ある程度あてはまる 3. どちらともいえない
2. あまりあてはまらない 1. まったくあてはまらない



Q9. 教員の授業運営（質問や発言の十分な機会、私語の注意など）は適切かつ公正だった。

5. よくあてはまる 4. ある程度あてはまる 3. どちらともいえない
2. あまりあてはまらない 1. まったくあてはまらない

